

2019,6,15

蝾螺ヶ岳・西方ヶ岳縦走記録

全国的にお天気予報が良くなかったのですが、私たちが行く方面は、ちょうど雲のない所で、ラッキーでした。

浦底地区登山口から常宮地区（常宮神社）に下山。14:00頃までは陽ざしも射し、お目当てのササユリにたくさん出会った。カモシカ台で雨が当たりだし、雨カッパの準備をしましたが、また直ぐに上がり、西方ヶ岳山頂で脱ぎました。帰りは、少し遅くなりましたが、「こんなにササユリに出会うなんて、普通2～3本よ。今日は大満足・・・」と皆さん喜んでいただきました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史① 歌川広重の「六十余洲図絵」の「越前 敦賀気比の松原」には、敦賀湾に入る北前船の背後に大きくそびえる西方ヶ岳描かれている。

歴史② 西方ヶ岳の中腹の標高500m付近に立つ、オーム岩は、江戸時代には「言葉岩」と呼ばれており、25m手前に離れた特定の場所（聞き石、呼び石という）からオーム岩に向かって声を掛けると反響し、近くで答えているように聞こえる。橘南谿の紀行文「東遊記」には宝暦年間(1751~1764) 発見され、小浜藩主も遊覧するほどであったと伝えられている。「常宮のオウム岩」として、1959年（昭和34年）10月2日に敦賀市の名勝にも指定されている。

歴史③ 炭釜跡：綺麗な石積の炭釜跡がありました。このような高い所 →→
まで作業に来られたのかと、ご苦労に思いを馳せました。



歴史④常宮神社（じょうぐうじんじや）：式内社。古くは氣比神社の奥宮・摂社だった。

大宝3年（703）氣比神社の摂社として創建されたと伝えられる。古くは、「常宮（つねのみや）」「常宮御前」「常宮大権現」と称された。この「常宮」とは神功皇后の神託の「つねに宮居し波風静かなる哉樂しや」に

ちなむという。明治元年、現在の社名読みにさだめられた。

歴史⑤竹内宿禰（たけうちのみくね）大和朝廷の初期に活躍した伝承上の人物。記紀によれば、東国を視察、成務（せいむ朝）に大臣（おおおみ）となり、神功皇后に従って新羅を制し、景行・成務・仲哀・応神・仁徳の五朝に渡って仕えたという。蘇我・葛城・巨勢（こせ）・平群（へぐり）などの諸氏の開祖といわれる。

◆トレッキングの様子



浦底登山口オオトラノオの群生



眺望



綺麗な樹林を行く



コースに咲くヤマツツジ



ササユリの花を撮る



あちこちにガンピの花も咲く



コアジサイの花咲く登山道



蝾螺ヶ岳山頂にて



カモシカ台にて



西方ヶ岳山頂



◆自然観察

※こんなことも確かめました①イワナシの実



小さな実ですが、皮を剥きますと、粉は黒くなっています。実を食してみますと、とっても甘く「上等の梨」を食したような美味しいものでした。

②オトシフミ:初夏の森には、たくさんの揺りかごが見つかります



幼虫が生まれた後、外敵から危険をく安心して葉を食べ大きくてなれるように、”偉大なる母の知恵”！。衣食住完備のスーパー揺りかごなんですよ。

③オトシフミの観察: ちょっと、気を付けてみれば、この時期あちこちに見つかります。



※このほかにも、ササユリがたくさん咲いていました。



オカトラノオ

ムラサキシキブ

シライトソウ

トンボソウ

ヤマツツジ

コアジサイ



ガンピ

ギンリョウソウ

ツクバネソウ

イボタ

トチバニンジン

ミヤマシグレ